

令和6年度 日本大学スポーツ科学部 個人研究費 研究実績報告書

所属： スポーツ科学部 競技スポーツ学科
資格： 准教授
氏名： 富樫 俊文

研究課題名	学童期ラグビー選手の頸部筋力に関する基礎研究
研究目的及び研究概要	(1) 研究の背景 2023年度に12歳以下ミニラグビーの競技規則が一部変更され、危険なプレー撲滅の目的に不正なプレー（危険なプレー・不行跡）への見直しが行われた（ラグビーユニオン競技規則, 2023）1。その中でも『胸部より上へのタックル』や『頸部、顔面、頭部へのハンドオフ』、『頭を肩や腰より 低く(ローヘッド)プレーをする行為』など頭頸部への保護に関する項目がより厳しくなった。 一方でラグビーなどのコンタクトスポーツにおいて頭頸部を保護するためには頸部の筋力が重要となるが、頸部筋力に関する報告は成人に対する報告は散見される（田島ら, 2022）2,（田島ら, 2002）3,（月村ら, 2002）4が学童期における頸部の筋力に関する報告は乏しい範囲ではない。 そこで、本研究では学童期（12歳以下）ラグビー選手における頭頸部外傷・傷害予防についての基礎研究として、学童期（12歳以下）ラグビー選手における頸部筋力を解明する。 (2) 研究の目的 これまでの先行研究では、成人を対象としたラグビー選手の頸部筋力の測定を目的としており、学童期を対象とした頸部筋力には着目されていなかった。本研究は学童期（12歳以下）において、頭頸部障害・外傷の予防や頸部へのトレーニング効果の研究を行う上での基礎的な研究の観点から、学童期ラグビー選手の頸部筋力を解明するものであり、学童期ラグビーという分野の基礎研究となり得る。 【引用文献】 1 ラグビーユニオン競技規則（2023）『競技規則 第9条不正なプレー（危険なプレー・不行跡）』日本ラグビー協会HP. 2 田嶋ら（2020）『コリジョンスポーツにおける至適な頸部周囲筋力と頸椎アライメントの解明 重症頭頸部外傷を予防するために』デサントスポーツ科学（0285-5739）41巻 Page135-144(2020.09) 3 田嶋ら（2002）『医学部ラグビー部員の頸部周囲筋力』日本臨床スポーツ医学会誌（1346-4159）10巻3号 Page490-494(2002.08) 4 月村ら（2002）『アメリカンフットボール及びラグビー選手における頸椎X線所見と頸部筋力との関連 経時的変化』日本整形外科スポーツ医学会雑誌（1340-8577）22巻2号 Page178-184(2002.06)
研究実績の概要	○研究の進捗状況 測定方法の練習および器具作成などの予備実験を終了し、現在、実験群のミニラグビー選手31名、対照群の少年野球選手9名の計40名の測定を終了している。来年度も測定を継続し、実験群および対象群ともに症例数を増やし、2025年10月までに測定を終了したい。その後、統計解析を実施し、学会発表および論文作成を作成する予定である。

研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等